

花き流通の標準化ガイドラインの検討について

農林水産省
大臣官房 新事業・食品産業部 食品流通課

花きの流通標準化ガイドライン検討①

【1. 台車】

第3回検討会での主な意見

- 手荷役解消や待機時間の短縮の観点から、ガイドラインはパレット・台車を推奨するという記載でよいのではないか。
- パレット又は台車は、管理主体をガイドラインに記載してもらいたい。
- 運賃の内訳における積み込みや荷役の料金が可視化されていない。
産地に対して物流コストをさらに上昇させないために標準化が必要という話をする必要がある。
- 個選の生産者は出荷ロットが小さく、パレットや台車を自らで用意するのが難しい。生産者は流通センターまで自分で持っていく、流通センターから卸売市場までをパレットや台車で流通することがよいのではないか。
- 標準化の推進を考えるなら、市場で新たな設備投資をすることも視野に入れる必要もある。
- 買参人には市場の台車を貸し出しているが、返却時の破損や紛失が多い。
- 運送コストの可視化に向けて、生産者から着荷主まで一堂に会して課題を共有してコスト負担の話をする場があるといい。特定の取引での議論であれば関係者も限定されたものとなるのでいいのではないか。この検討会から関係者間で共有を図るように提案をしていただければありがたい。

花きの流通標準化ガイドライン検討②

【2. パレット(平パレット)】

第3回検討会での主な意見

- ・ 運送業者にパレットへの積み込みをお願いした場合、トラックの積載率が落ちるため、その分の別の料金を求められるのではないか。
- ・ パレットはトータルで管理するところが現状ないのでパレット回収という話がでてくる。
- ・ 産地からパレットで持ち込まれた場合には、荷物は台車に積み替え、空パレットは持ち帰ってもらっている。

【3. 外装サイズ】

第3回検討会での主な意見

- ・ 産地がそれぞれ自分の生産物の長さに合わせて箱を作ってしまうから外装サイズが煩雑化している。統一の長さにしてしまうことも必要だと感じている。
- ・ 外装サイズは4パターンを基本にすることで賛成だが、品目によっては大きいサイズの箱に大量に詰めることも物流コストを下げるメリットがあると感じている。
- ・ T11パレットに適合しないダンボールが現状多いが、将来的には青果、花き、加工食品等を含めて統一した段ボールサイズを集約化していくことが、物流効率化の理想と感じている。

花きの流通標準化ガイドライン検討③

【Ⅳ. コード・情報等】

第3回検討会での主な意見

- ・ 個選でのフロリスの導入は難しいなど現実には承知しているものの、情報の標準化としては、将来的な理想を掲げつつ「推奨する」という文言を入れるべきではないか。
- ・ 現状では産地から出荷情報をFAXで流して、その情報を基に市場でデータ入力する作業がまだ多い。これを今後数年以内にフロリスネットによって、産地と市場相互にデータという体制に移行したい。
- ・ 問題は煩雑化している産地のコードと市場のコードをどのようにして照合していくのかということ。そこで行番号を利用することを考えている。JAの職員数は増やせないなので、照合作業の効率化を工夫していく。
- ・ 現状市場とはCSVデータによるやり取りを行っている。統一コードの話は実現が難しいので、変換テーブルを活用するなどのやり方で進めた方が現実的ではないか。
- ・ 品名の持ち方のルールが統一されていないので、様々な品名が飛び出し、商品コード等が煩雑化している。どのような要素をもとに項目を立てるのかまずは整理できれば、文字列で統一しなくても、JFコードでも統一は可能なのではないか。
- ・ 小さい市場はシステム導入費用の捻出が難しく、効率の良い事務処理が出来ていない。地域の市場は何社か共同で事務の集中管理を行うことで、システム費用の低減が図れるのではないか。